談 話 室

第10回表面科学講演大会

上 村 揚一郎

無機材質研究所
〒305 つくば市並木 1-1

(1991年5月7日 受理)

The 10 th Conference on Surface Science

Yoichiro UEMURA

National Institute for Research in
Inorganic Materials
Namiki 1-1, Tsukuba City, Ibaraki 305

(Received May 7, 1991)

日本表面科学会主催の第 10 回表面科学講演大会が，平成2年12月3日～5日の3日間，東京タワーの足元にある，機械振興会館において開催された。2日目の午後(12月4日の午後)には，「超薄膜」のテーマでシンポジウムが行われた。講演件数は一般講演110件（取り消しは除く），シンポジウムの招待講演が5件で，合わせて115件，大会参加者は約250名といずれも昨年より約2割の増加であった。セッション別にみると表面分析・評価21件，STM 関係9件，微粒子5件，薄膜11件，表面機械効果4件，表面物理8件，表面化学 18 件，表面処理6件，高分子2件，酸化物超伝導体16件，Si の表面界面 10 件であった。

講演大会は会誌と並んで学会の顔であり，それが年と共に隆盛になっていくのはまことに喜ばしいことではあるが，また問題もある。当学会の特徴の一つとして学際的な側面をあげることができる。そのためテーマは非常にバラエティーに富んでおり，種々の分野の人々の講演を聞いたり討論をしたりでき，また討論の時間もいくぶんゆったりしていた。それが講演件数の増加と共に一つのセッションの件数が多くなり結局同じ専門分野の研究者が集まることになるとともに，会場数の増加，時間的な問題など大きな学会がもつのと同じ悩みも出てくる傾向にある。

また，セッションによる発表件数の偏りも見られるようになってきた。上に記したように表面分析・表面化学といった分野の発表件数が著しい増加を示した一方で，生体・高分子の発表件数が初期の頃に比べ減少傾向にある。今後，学会としても生物，高分子関係の表面研究に寄与すべく，この方面の会員増強をはかるとともに，種々の学会活動（たとえば会誌の解説記事，セミナーのテーマなど）を通じて働きかける必要があるようである。

ここ数年来，大学関係の方々の好意により会場を大学（東京農工大，東大，早大など）に確保していただいていたのが，発表件数の増加に伴い学期期間中の教室の確保が困難になり，今回は大学以外の会場を借りて行わざるをえなかったのが実状です。このようにして借りた会場は有料であることはもちろんのこと，利用時間にたいしても制限が厳しくなっています。そのため座長の先生方には格段のご苦労をおかけすることになり，この場を借りて改めてお礼申し上げるとともに今後のご協力も重ねてお願いします。また講演者および参加者の方々も十分な討論ができなかった面もあるかと思われますが，講演件数の増加に伴う処置の仕方，あるいは十分な討論の期待などからポスターセッションの設置なども今後検討していく必要があるかと思われます。

第 10 回大会では，シンポジウムに先立ち学会論文賞の表彰式が行われました。時間的な都合で残念ながら受賞された方の記念講演を行っていただくことができませんでした。学会論文賞もしだいに定着し，論文を投稿される方々の励みになってきているようです。講演大会においても，その記念講演が話題の中心となるような設定を，今後の大会運営の中で検討していく必要もあろうかと思われます。

本講演大会も 10 回を数え，開催時期の問題，セッションの仕分けの方法，会場運営のあり方など種々の見直しが必要な時期にきているような感がします。最後に，平成3年度の第 11 回講演大会は先にもご案内しましたように，12月2日から3日間，早稲田大学に新設されました国際会議場をお借りして開催する運びとなりました。会員の皆様方の講演大会への積極的なご参加とともに大会運営に関しましても，何かご意見がございましたら，ぜひともご連絡くださいますようによろしくお願いいたします。